

「かけっこ」

かけっこをしていた5歳児の子どもたち。ゴールを目の前にして、KちゃんがLちゃんに追い抜かされました。



Kちゃんは、泣きながら訴えてきました。「Lちゃんがぶつかってきた!」

え?! わたし、ぶつかってないよ!



Kちゃん、わかったよ。頑張って走ってたもんね。すごく速かったよ。ステキだった。た「けど」Lちゃんもすごく頑張って走っていたよ。2人とも頑張って走っていてステキだったね。



納得した表情の2人は、いつもの明るい笑顔を取り戻していました。

運動会 島崎藤村

きみたちの、かいはいやる演技がみたい。感心をよぶ、ひたむきで、まじめな姿がみたい。自分を「ごまかす」、あまやかす。正々堂々と、最後まで「やりぬく」姿は美しい。強くなくてもいい。速くなくてもいい。じょうずでなくてもいい。そして負けてもいい。しかし、絶対に許せないのは、中途半端なやり方と、ずるい根性。全体の美をそんな行為である。

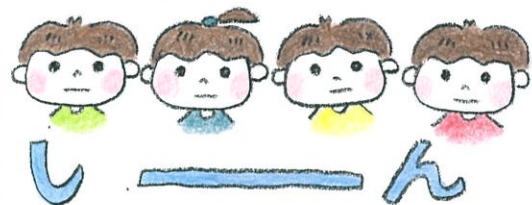
「運動会」

今から「運動会」という島崎藤村の詩を読みます。聞いて下さいね。



耳を澄ます4.5歳児の子どもたち。

「きみたちのかいはいやる演技がみたい。感心をよぶ、ひたむきでまじめな姿がみたい。自分を...」



詩を読み終えた後、子どもたちが詩の意味を理解できるように、具体的な例を混ぜて話をしました。



どんな運動会にしたい? 車云でも泣かない!

ズルしない! いっしょうけんめい走る! うん! 頑張る。



新たな意欲が、子どもたちのキラキラと光輝く瞳から伝わってきました。